

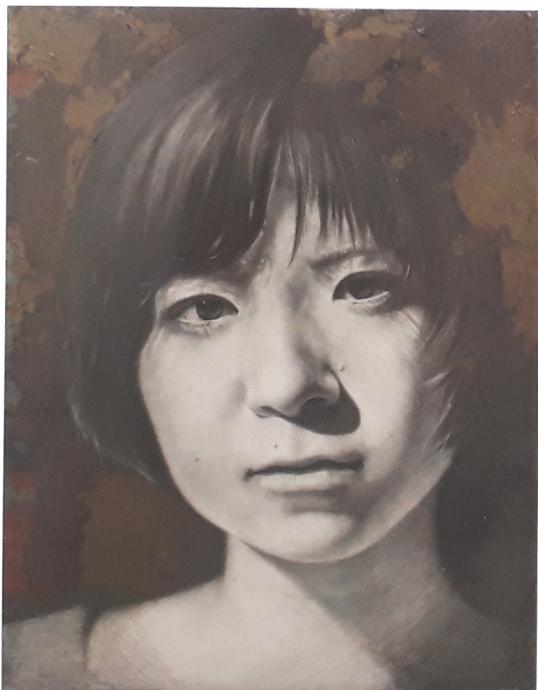


2018年2月号の月刊美術52、57pに
画廊主催のコンクール

主催が語る受賞作家の実力と魅力コーナーに
掲載いただきました

川端健太 Kenta KAWABATA

現在、東京芸術大学油画専攻在学中。2017年かわうそ新人賞グランプリ。



《記憶》 10F 鉛筆、箔 第一回かわうそ新人賞 グランプリ作品

かわうそ新人賞(銀座かわうそ画廊主催)
本場に「欲しい」作品を求めて
—宮真理子(銀座かわうそ画廊)

昨年の第一回展のグランプリは、川端健太さんが受賞。審査員には自ら私財を投じて作家の肩書とは関係なく自身の眼で選んだ作品を集めるコレクターの方たちを迎える。本場に絵が好きな審査員たちが純粹に「欲しい」という気持ちで選んでいます。その結果、川端さんの受賞作も別作品も早々に完売することができました。1月の個展(20日〜26日)も期待が寄せられています。

作品が一般のユーザーに支持されて愛されることはプロの画家の第一歩。お客様との出会いの機会が年齢や居住地のハンデにより少ないと感じておられる作家さんにも、これからプロの画家として市場に出たい方にもぜひきっかけを作りたい、応援したいと考えています。

グランプリの川端さんは東京藝術大学の学部生優秀賞の末次広幸さんは九州で研鑽を積む四十代の社会人、また佳作の九鬼匡規さんも四十代で、全くの新人で本賞からデビューし人気です。年齢に関係なく良い作品を描く情熱のある作家作品に出会えご縁をつなげた時の喜びは画廊として無上のもの。第二回以降も、まだ見ぬ作家の力ある作品に出会えることを楽しみにしています。

(談)

かわうそ新人賞

プロ志望の作家を対象とした、銀座かわうそ画廊主催の公募。応募資格は16歳以上、応募作品は10号サイズ以内の平面。美術市場を重視するという前提に立ち、審査員にはコレクターが複数参加する。第一次審査は画像で行い、それをパスした作家の実作品を展示し審査を行う。

「かわうそ新人賞2018」は1月31日締め切り、2月10日一次審査結果発表、2月24日〜3月2日、同画廊で展覧会開催。